

WEEKLY

一宮

題字 PG 安野謙次

Rotary
一宮RC



The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日

●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931 ☎491-0858

ロータリーのマジック

URL: <http://rc138.org>

E-Mail: rc138@lily.ocn.ne.jp



重文「陵王」面 真清田神社蔵



2025年4月17日
第3632回例会



会 長	佐々木久直	会長エレクト	山上哲司
副 会 長	森 克彦	副 幹 事	大鹿晃裕
幹 事	鶴 飼 雅弘	会報委員長	浅野 一

プログラム

春の親睦家族会
大阪・関西万博

第3631回例会の記録
2025年4月10日(木)

***** プログラム *****
会員卓話 森 克彦君(パスト会長)
テーマ「ロータリーと会社経営」



私は1991年44歳の時一宮ロータリークラブに入会し、今年でロータリー歴35年となります。昨年の75周年記念式典では永年在籍表彰を頂きました。皆様のおかげでロータリー・ライフを楽しんでいます。佐々木会長から例会の卓話の依頼を頂いた時に、日頃お世話になっている皆様に何か参考になるようなお話しをすることができればと思い、お引き受けることにしました。

本日の卓話では、「入会に当たって驚いたこと」に始まり、先輩から伺って感動した「エピソード」をご紹介し、最後に「ロータリーに学んだことをどのように会社経営に生かしたか」順を追ってお話します。

次回の予定

24日 クラブアッセンブリー
地区研修・協議会報告

[1] オリエンテーションの衝撃

入会に先立って、オリエンテーションを受けました。森田力(第40代会長)・太田治幸(第38代会長)・玉腰隆造(第41代会長) 大先輩3名を前に酷く緊張したことを今でも鮮明に記憶しています。最後にRCは例会への出席を厳しく義務付けているとお話がありました。当時の私はアパレル製品の営業担当取締役を務め、出張が多かったので、「欠席することがあるかもしれません」と、正直に答えてしまいました。「しまった!」と思ったものの後の祭りです。

「君は親父さんからロータリーのことを何も聞いていないの? 例会には必ず出席するのが決まりだ! 一宮RCではほとんどの方が年間100%出席を続けておられる。」とお叱りを受けて冷や汗をかきました。気まずい沈黙の後、ホームクラブ例会への出席に代わる救済措置として他クラブへのメイクアップが認められることを教わりましたが、自分が100%出席を実行できる自信はありませんでした。

[2] メイクアップの効用

私はRC入会当時、名古屋にデスクをおいて仕事をしておりまして、まず名古屋RCへのメイクアップが頭に浮かびました。名古屋経済界の重鎮が名を連ねて、敷居が高いとの評判を聞いてしばらくは躊躇したものの、肝試しと思って出掛けました。出席してみると、幸い名古屋繊維業界の老舗企業のオーナーの方々も多く在籍され、暖かく迎えて頂き緊張がほぐれました。当時私は、名古屋繊維業界のいくつかの会合に会社を代表して出席するようになっており、その方々と面識があったことが幸いしたと思います。その後は逆に業界の会合に出席しても、「一宮の会社」という扱いではなく、ロータリアンとして遇して頂けるようになり、ロータリーの有難さを実感しました。

九州へ出張した機会に福岡RCの例会にメイクアップした時のことです。例会が始まりビジター紹介が行われると、その一人一人に対して全員から大声で「ヨシ!」という掛け声が掛けられました。いかにも博多らしい威勢の良い歓迎を受けて気持ちが高揚しました。

私は20年ほど前には頻繁に中国へ出張しており、第二次世界大戦前にあった上海RCが60年ぶりに再開に向けて準備が進められているとの情報を得て、興味津津、例会場の上海市内のホテルに赴きました。例会は夜間で、開催前にカクテルを飲みながら談笑していると、出席者約40名の半数は香港、シンガポール、オーストラリアからのビジターであることが分かりました。例会はSAA自らが中国語と英語を駆使し

て進められました。

京都RCにメイクアップした時のことです。ビジターの方からスピーチがありました。「自分は銀行の京都支店長を務めていた時に、京都RCに入会してロータリーライフを満喫させてもらった。京都RC時代の同じ境遇のメンバーと懇意になり、東京転勤後も京都RCのOB会のような形で定期的に集まって旧交を温めている」いかにも京都ロータリークラブの特徴を表すスピーチと思いました。

[3] 一宮ロータリークラブの創設

一宮ロータリークラブが設立された1949年頃の一宮中心市街地の写真をご覧ください。空襲による焼け跡が残り、粗末な家屋や工場と思しき建物が立ち並んでいます。幹線道路にはトラックが1台走っているだけです。写真が撮影された翌1950年に一宮ロータリークラブの設立認証伝達式が行われた時、来賓を送迎するために手を尽くしてようやく車3台を手配したが、その内ガソリンで走る車は1台で、残る2台は木炭車だったということです。このような時代背景の下で一宮商工会議所の有力議員22名によってロータリークラブは設立されました。戦後初めてのことで、お手本がないという困難を克服して設立に漕ぎ着けたチャーターメンバーの高い志と熱意に敬服します。

[4] 創設にまつわるエピソード

私は入会して3年目にプログラム委員長を仰せつかりました。まだロータリー活動のことがよく理解できていなかったのも、ロータリーについてはこの方が一番詳しいと専ら定評のある星野充(第33代会長)さんに教えを請いました。星野さんにはこれ以降も折に触れてご指導を頂くことになります。

ある時星野さんから一宮ロータリークラブ創設にまつわるエピソードをお聞きしました。以下はその要約です。

第二次世界大戦後の一宮は繊維産業が逸早く復興に向かい、経済界は活況を呈したが、反面では利己主義的な商売のやり方が目立つようになった。商工会議所の若手議員の間では、この状況を憂えて、正しい商慣行と国際的な視野に基づく経営を学ぶ必要がある。欧米では厳しい職業倫理を守る経営者の集まり「ロータリークラブ」があり、これに学ぶのが良いとの議論が沸き上がった。戦前に英国留学の経験があり、英語に堪能な安野譲次(当時42歳)が有志代表として当時の商工会議所豊島半七会頭にロータリークラブ設立のお伺いを立てることになった。豊島会頭は戦前から名古屋RCの会員となり、活動に理解があったので、ロータリークラブの設立に賛同された。

ロータリー活動を実地に学ぶため、安野は大森喜代三郎(第10代会長)と同道して名古屋RCの例会に出席した。そこでは例会が定刻に始まり定刻に終わるのに驚いた。例会が終わっての帰り道に、豊島会頭にどう報告するか二人は頭を抱えてしまった。「一宮にロータリークラブを作るのはとても無理だ。10年早い！」

というのも、当時の一宮には「一宮時間」という慣習があり、会合は20分から30分遅れで、ようやく始まるのが普通だったからだ。

豊島会頭にその旨を報告すると、「これから一宮の経済人は商売を大きくするためには欧米との付き合いをしていく必要がある。欧米人の商習慣では約束の時間を守ることが大切で、ロータリー活動の導入は『一宮時間』を是正する切っ掛けとなる」と逆に発破をかけられる始末。事ここに至っては「やるしかない」と覚悟を決めて、二人を中心に大車輪で設立の準備が進められた。

[5] ロータリーの奉仕活動

一宮ロータリークラブ設立の翌年、1950年4月12日に国際ロータリーからの設立認証伝達式が一宮市内の会場で行われました。当日は前年度国際ロータリークラブ会長のアンガス・S・ミッチェル氏が出席し認証状が手渡されました。同氏が京都で開催の年次総会に出席するために来日されるとの情報を入手して、一宮RCの認証伝達式への出席を熱心に働きかけて実現に漕ぎ着けました。一宮は毛織物産業が急拡大しつつあったので、同氏の母国である世界最大の羊毛輸出国オーストラリアとの関係を深めたいという経済界の熱意によって実現したと聞きます。

伝達式で安野譲次初代会長が述べた式辞にミッチェル氏は甚く感動され、安野会長の了解を得て、その後、各国の講演でしばしばこのスピーチを引用されたので、ロータリーの奉仕を表現する言葉として広く知られるようになりました。

「青少年の問題、商業道徳向上の問題、国際親善の問題など、私共のやる仕事は山ほどあります。しかし、これらの仕事はみな竿(さお)で空の星をたたくことするようなことではないのでありまして、各自の足下(あしもと)の石を拾うような手近な仕事の集積によって解決できると存じます。私はこの世の中に、友愛と奉仕の精神によって解決できない何物も無いと信じます。」

[6] 私の職業奉仕

RCに入会して驚いたのは、有能で責任感の強い人が多いことです。(後に幹事や会長を務めた時、特にそれを実感することになります！)そして、このような人材が社内に何人かでもいてくれたら会社経営は楽だろうと感じました。しかしRCでは彼等は無給で仕事をしてくれるので財務的にやっていけるが、会社経営はそのような高給を払っては成り立たないと気づきました。そこで時間は掛かるが職位別の勉強会を継続的に行って自社の社員を育成することに取り組みました。

RCでは会長幹事理事役員が単年度で交代しても運営が円滑に行える仕組みができていて感心しました。理事会を組成し運営する手順、活動を記録した報告書類を保存・継承し活用すること等々です。私どもの会社では従来の卸問屋体質をひきずり属人的な仕事のやりかたを行っていましたので、これを改めて、営業・生産・物流業務の標準化を進め、効率的に運用する新情報システムの導入を行いました。

ロータリーには職業奉仕の理想があります。会社経営にも抛りどころとなる理念を社員と共有することが必要と考え、「活力ある会社」「働きやすい環境」を目指す思いを社員に直接、繰り返し語り掛けました。また全社営業方針として「オリジナル素材の開発」「中国への事業投資」を強力に推し進めました。

人材育成・業務標準化・経営理念の共有は一挙に進んだわけではありません。日常業務の中で粘り強く行いました。その手応えをつかんだのは10年ほど経った頃でしょうか。安野譲次初代会長のスピーチにあった、高い目標を「足元(あしもと)の石を拾うような手近な仕事の集積」によってようやく実現できたものです。

RCで学んだことを会社経営に応用するにあたっては、経営に関する本を読んだり、講演を聞いたりして理論武装に心掛けました。

本日の卓話はサクセス・ストーリーとしてうまく出来すぎている嫌いがあります。従ってどうか割り引いてお聞きください。ご清聴ありがとうございました。